

団体名

公益財団法人
山形県国際交流協会

多文化共生のまちづくり促進事業

ジャンル

意識啓発・地域づくり

事業費総額 700千円

事業名

山形在住外国出身者ネットワーク構築・強化事業

事業のポイント

◇山形県内 4 地域において外国出身者（外国出身者の日本人の家族、日本人支援者、各市町村職員等を含む）を対象とした専門的な研修会を実施することで、個人の生活力・自助力を向上させる。
◇日常生活を送る上で、気軽に情報交換できるようなネットワークをつくり、災害発生時などの緊急時にも外国出身者間の情報網として機能するようなネットワークの構築を目指す。

事業の背景・目的

◇平成 25 年度に、宮城県国際化協会と協働で「宮城・山形定住外国人エンパワメントカレッジ」事業を実施し、宮城・山形両県に暮らす外国出身者を対象に、計 6 回の研修会を宮城で 3 回、山形で 3 回開催した。研修会の趣旨は以下のとおり。
①在住外国人の知識・自助力の向上
②県境を越えた外国人同士のネットワークの構築
◇平成 26 年度は、山形県内 4 地域における外国出身者のネットワークの充実を目的として、本事業を実施した。

事業の概要

① 県内 4 地域での外国出身者のための研修会の開催

○テーマⅠ「こころのケア」

講師：五十嵐 善雄 氏（精神科医）

五十嵐 郁代 氏（臨床ソーシャルワーカー）

○テーマⅡ「就職活動のノウハウ」

講師：大泉 多美子 氏（2 級コンサルティング技能士）

■最上地域に暮らす外国出身者のための研修会 in 新庄市

・開催日：6 月 11 日（水）、22 日（日） ・参加者数：28 名（18 名）

・参加者出身国：中国、韓国、フィリピン、ブラジル、日本

※（ ）内の人数は外国人の参加人数。以下同じ。

■庄内地域に暮らす外国出身者のための研修会 in 三川町

・開催日：7 月 6 日（日）、26 日（土） ・参加者数：28 名（25 名）

・参加者出身国：中国、韓国、ブラジル、タイ、ウガンダ、日本

■置賜地域に暮らす外国出身者のための研修会 in 川西町

・開催日：9 月 7 日（日）、24 日（水） ・参加者数：30 名（24 名）

・参加者出身国：中国、韓国、アメリカ、マレーシア、日本

■村山地域に暮らす外国出身者のための研修会 in 寒河江市

・開催日：10 月 4 日（土）、25 日（土） ・参加者数：26 名（17 名）

・参加者出身国：中国、韓国、ブラジル、タイ、日本

② 山形県に暮らす外国出身者のための研修会

○テーマ「見る、聴く、感じる介護体験！」

・開催日：8 月 8 日（金） ・参加者数：14 名（13 名）

・内容：施設の見学と介護の基礎についての体験学習

・参加者出身国：中国、韓国、フィリピン、ブラジル、アメリカ、日本



「こころのケア」研修会の様子



「就職活動のノウハウ」研修会の様子

事業実施における工夫点・事業の成果等

【工夫点】

①キーパーソンの活用

平成 25 年度に実施した、宮城県国際化協会との共同事業の参加者など、山形在住歴が長い外国出身者には、一般参加者としてではなく、「協力者」という立場で研修会の運営面をサポートしてもらった。（会場設営、受付、日本語能力が不十分な同国出身者への通訳など）

②各地域の国際交流関係団体との協働

研修会を県内 4 地域で開催するにあたり、各地域の国際交流関係団体への直接訪問、リーフレットの送付を行い、広報協力や共催を依頼した。また、「外国出身者」の他にも、その家族、外国人支援に関わっている日本人、各自治体職員や国際交流関係団体なども広く対象にしている旨を説明し、団体の窓口となっている方にも参加を依頼した。

【成果】

- ・ 友達同士での参加から、さらに新しいつながりができ、研修会終了後に連絡先を交換しあう様子も見られる等、各地でネットワークの基礎となるつながりができつつある。
- ・ キーパーソンの活用により、協力者の外国出身者に「自分はキーパーソンである」、また「支援される側でなく、支援する側である」という意識が芽生えた。支援する側に立って活躍する場を提供することで、彼らの自信につながり、協会との信頼関係も強化できた。また、新たなキーパーソン候補も見つかった。
- ・ 当協会の職員と、各地域の外国出身者や国際交流関係団体担当者との顔の見える関係が構築されたことにより、協会からの依頼や本事業以外での相談・連絡が円滑に行えるようになった。



介護体験

今後の課題・将来に向けての展望等

- ・ 仕事をしている外国出身者が参加しやすいように、週末（主に土曜日）に研修会を開催したが、自治体職員の参加が少なかった。平日に設定すると、仕事をしている外国出身者の参加が少なくなることが予想されるため、自治体と外国出身者をつなげたいという思いはあるが、このジレンマ解決が今後の課題であると考えている。
- ・ 人と人とのネットワークは、一朝一夕にできるものではなく、じっくり時間をかけて徐々に構築されるものであるため、将来的には、各地で自然な形で、外国出身者による自主的なネットワークの立ち上げにつながるよう、協会として働きかけていきたいと考えている。



「こころのケア」研修会参加者の皆さん（庄内地方）

事業担当者のふりかえり

- ⇒ 本事業は、協会単独で実施できるものではなく、また、単年度で完結するような事業ではない。国際交流関係団体、自治体、日本語教室、そして山形県に暮らしている外国出身者といった多くの関係機関の協力のもと、数年間の実施・継続を予定している事業である。幅広い人的ネットワークは、まずは 1 対 1 での「顔の見える関係」ができてこそであり、そこから徐々に徐々に広がっていくものだと感じている。母国を離れ、日本で暮らす外国出身者にとって、自分の地域に同国出身の友人がいるということは心強いことである。平時においては気軽に情報交換しあい、大災害発生などの非常時には母国語で重要な情報が伝わるような緊急時情報網として、この事業を通して築かれたネットワークが、外国出身者の個々の生活に役に立ってほしいと願っている。